

拝啓 今年も早や2月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。我が家の庭にしだれ梅がありますが、このエンカウンターが届く頃には、満開になっていることでしょう。また港北ニュータウンの茅ヶ崎公園の河津桜も、今頃満開になっていることでしょう。

今回は、小西芳之助先生の『コリント人への第二の手紙講解説教』からの引用の7回目ですが、今回の「エンカウンター」の4ページ、「ひらめきは実行しなければ消える」という項目には、次のようにあります。

「どんなひらめきが頭に浮かんでも、それを実行しなければ、それは消えてしまいます。我々も、たまには良い考えが浮かぶかもしれませんが、それをなかなか実行しない。偉い人はそうではない。そのひらめきを終生心に抱いて、持っています。」

私は朝、顔を洗い、歯磨きをしている時に「ひらめき」を感じる事が多いのですが、その時のひらめきは、できるだけ大切にして、実行するように努めています。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』2月17日

「余の信仰の証し

余の教会の創立10周年記念日にあたり、信仰の友人に余の信仰を捧げる。

口では、我が主イエスよと言う。

心では天国へ行くと思わんと欲す。

手では目の前に置かれた事をなさんと欲す。

以上が予のキリスト教なり。而して、心と手では、以上のことをなし得ずとも失望せず、ただ「わが主イエスよ」と言う。ヨエル書2章32節、ロマ書10章13節、使徒行伝2章21節に、「主の御名を呼び求める者は凡て救われる」とあればなり。

主イエスよと呼びてはげまん 今日また

手に来るわざを 御国めあてに 」

新渡戸稲造先生『一日一言』2月17日

「梅は華界の君子、色も香も花も実も兼備する樹は梅である。それを知りてか、鶯は遠きも厭わで訪れるとは、鶯もまた君子の交わりを喜ぶと見える。自らは君子ならずとも、君子の言と自然の声は楽しむだけの心を欲しい。」

松下幸之助先生『続・道をひらく』「定めなき日々に」

「先は先に任せよう。ともかくも大事なことは、我が足もと、今日只今の出発点に誤りなきかを、自他ともに素直に反省することである。

その反省が刻々につみ重ねられ、今日ただ今のお出発点が刻々に正されて行くならば、一歩一歩の安心の道が必ずひらけてくる。

先の先を案ずるよりも、まず今日ただ今の素直な反省が求められるのである。」

内村鑑三先生『続一日一生』1月23日

「汝の全力を注ぎて、なんじが、今日従事しつつある仕事に当たるべし。さらば遠からずして、なんじはなんじの天職に到達するを得べし。なんじの天職は、天よりの声ありて汝に示されず。なんじはまた思考を凝らしてこれを発見するあたわず。なんじの天職は、なんじが今日従事しつつある職業によってなんじに示さるる也。なんじは今やなんじの天職に達せんとしてその途中にある也。なんぞ勇気を鼓舞して進まざる。なんぞ惰想にふけりて天職発見の時期を遅滞せしむるや。知者あり、いわく、

すべて、汝の手に堪えることは、力を尽くしてこれをなすべし（伝道の書9・10）と。このほか、べつに天職発見の道あるなし。平平坦々たる道なりといえども、その終点は希望の町なり。感謝と歓喜の都なり。

パークレー先生「ウィリアム・パークレイの一日一章」1月4日

「時間（2）

時間についていつも念頭に置いておくべきことが三つある。

- 1、我々に与えられた人生の時間は限られている。その終りが来た時、それ以上の時間を手に入れることは出来ない。
- 2、人生の長さをだれも知る事が出来ない。
- 3、学ぶべきことがあれば、いま学ばなければならない。先に伸ばせば伸ばすほど学ぶことがむつかしくなってくる。

「なすべき時はいまだ！」

もうお時間です！

カウマン先生『山頂を目指して』1月15日

「朝のわずかな時

人生の労苦が始まる前に、
世的なものを受け入れる心の戸が
開かれる前に、
おお、その時、朝の静けさのうちに、
あなたはひとりイエスとともにいて、
天の麗しい交わりのうちに、
あなたの毎日を生まれさせなさい。

……

朝のわずかな時、

手にあなたの聖書を取って、
平和な約束の地からの
栄光のきらめきをとらえなさい。
あなたが忙しい仕事につくときも、
それは、あなたの前にとどまって、
希望の花そのままに、
美しくあなたの心に咲くでしょう。
宝石のような尊いみことばは、
比べることのできないほどの輝きを持ち、
一日中きらきら光って、
あなたのすべての道を明るくするでしょう。

朝の時は、その手の中に黄金を持っている。」

私の妻山口和枝は、2023年2月3日、12指腸消化管間質腫瘍の為、天に召されました。79歳でした。早稲田教会において、古賀博牧師司式のもとに、2月8日前夜式、9日葬儀告別式を取り行ないました。私としては、55年も結婚生活が続きましたが、考え方も趣味も異なっており、お互いによく忍耐したというのが本当のところですが、癌が再発してからは、私の方で心を改めまして、できるだけそばにいて寄り添うことといたしました。癌の再発以来約1年半、貴重な時間を頂きました。

キリスト教では、復活と永遠の生命を信ずるものでありますが。和枝は、今天にあって、大切に育てて頂いた両親、先に天に召された妹、信仰の先生、友人方に会っていることでしょう。また、生前お付き合いのあった人々の心の中に生きて、励ましてくれると信じます。これまで色々な形でご支援、ご厚誼を頂きありがとうございます。

新型コロナはいまも流行がやみませんが、インフルエンザと同じ扱いにすることになるようですが、しばらくは、マスク、手洗い、うがいなどはこれまで同様実行されて、またワクチン注射は打てるときに打つという方針で行かれまして、十分ご注意下さるようお願い申し上げます。

2月20日

山口周三

エンカウンターのご読者各位